



教育学部の学生 31 名が、本校で教育実習を行っています。  
児童生徒の実態を踏まえた授業を計画し、教材準備にも熱が入っています。  
今回の教育実習では、特別支援学校ならではの「チームティーチング」で授業実践を行っています。  
放課後には、その日の授業について、教職員も加わって反省会を行い、授業改善を図っています。

特別支援学校の教員を目指し、熱心に教育実習に取り組んでいる学生の声を御紹介します。

「3週間という短い期間の中でも、子どもたちが日々小さな成長を重ねている姿を見ると、とても嬉しく感じます。子ども一人一人にどのような姿を願うかによって、どのような言葉掛け、支援を行うべきか、教師が意図を持って動くことが大切だと学びました。実習も残りわずかですが、最終日まで頑張りたいと思います。」

「実習3週間を終え、教員として、社会人として成長途中ではありますが、いざ子どもたちの前に立つと、一人の教員として実感することができます。また子どもたちと一緒に生活する中で、喜びを共有できることが、教師の楽しさであると分かりました。先生方、子どもたちに支えられて今の私があります。残りの実習も有意義に過ごしていきたいです。」